

## 宇部市文化振興まちづくり審議会 第2回会議概要

日 時：平成28年(2016年)7月14日(木) 15:00～16:35

場 所：市役所 2階 第2会議室

出席者：委員9人(欠席1人)

事務局：片岡総合政策部長、庄賀総合政策部次長

青山文化・スポーツ振興課長、荒武文化・スポーツ振興課長補佐

酒井文化振興係長、津室主任

### 議事

#### (1) 市民アンケート及びワークショップの実施について

市民アンケート及びワークショップの実施について概要を事務局より説明。

(委員) このたびのワークショップは、市民大学文化学部において実施するのか。

(事務局) 市民大学文化学部には23人の受講生がおられるので、4つ程度の班に分かれ討議していただき、様々な角度からご意見をいただきたいと考えている。

(会長) 市民アンケートの実施時期はいつか。

(事務局) インターネット市民モニターを今月に行い、紙媒体のアンケートは各部等が実施する会議やイベントで実施し、更に各市民・ふれあいセンター窓口に設置している。紙媒体のアンケートは、7月から8月上旬まで実施する予定である。

ぜひ委員の皆さんにも、お知り合いの方にお声がけをされるなどご協力をお願いしたい。

(会長) ワークショップは、ビジョンの基本目標である「人と地域がき

らめく 文化の薫るまち」が実現している状況などを討議するということだが、これは面白いと思う。

良い意見がでるよう進めてもらいたい。

## (2) 改訂の方向性について

### 取り組み内容の見直し等

重点アクション・プログラムや個別事業の改訂案などを事務局より説明。

(会長) 現行ビジョン策定時に、基本目標である「人と地域がきらめく文化の薫るまち」を実現するポイントを手探りで考えたのが、3つのテーマA「緑と花と彫刻のまち」、B「にぎわいのあるまち」、C「未来に向かうまち」だった。

5年経ち、現状あるいは、将来を見据えて変えたところが良いと考えられる部分を、今回改訂する。

また、昨年からはじめ、今後も継続していく予定の「まちじゅうアートフェスタ」をさらに発展させることを意識した内容にもしていく。

さらに、文化創造財団が設立されて、既に事業を実施し、記念会館・文化会館の指定管理も行うなど、ある程度当初の目標に達したものなどは、重点事業から個別事業に変更する、あるいは整理統合する。

そして、重点アクション・プログラムの「子ども伝統文化わくわく体験学校支援事業」など、事業の範囲がかなり限定的なものは対象範囲を広げるような事業内容に変更する。

ビジョン改訂案のポイントは、そのように理解できる。

(事務局) 前回のビジョン策定時は、各課で実施していた事業の中で少しでも文化に関わるものを広く取り込んでいった。今回は、各課等の意見も取り入れ整理した。よって、事業が減っているように見えるが、この中に抜けているものがないかどうかもご確認をお願いしたい。

また、新しい事業など追加で入れた方がよいものがあればそちらもお伺いしたい。

(委員) 重点アクション・プログラムになると、予算に影響することがあるのか。

(事務局) 重点アクション・プログラムと予算とは直接連動はしていない。次期文化振興ビジョンを象徴するものとして考えていただきたい。

(委員) 重点アクション・プログラムの「文化振興連携支援事業」などは、同じ重点の「文化振興体制整備事業」や、個別事業の「記念会館・文化会館の管理運営及び施設整備事業」より事業費が大きい。

(事務局) 文化創造財団が設立されて、文化事業や指定管理としての施設管理があり事業費が多くなっている。重点だから事業費が大きくなっているわけではない  
重点と個別事業とで、予算額が連動しているものではない。

(委員) 現行ビジョンの4つの「付帯意見」について、配慮して改訂案を考えたのか。

(事務局) 参考にしているが、改訂案は今年の「まちじゅうアートフェスタ」などに重きを置いた。

(会長) 5年前、テーマB「にぎわいのあるまち」を設定したが、今年の「まちじゅうアートフェスタ」が、それを具現化したものだと思う。

文化は日常的に振興されるのが良い。美術館に行くだけでなく、例えば落書きのようなアートからも文化の裾野が広がる可能性があるし、「食」からも広がっていく。

最終的には、まちが賑わい、日常的に文化が振興していくのが大事。

自分で好きなものを選んで極めることも大事。

そのためには一流の催事も時々開催して見ていただく、あるいは参加していただくことも必要。

ビジョン改訂案は、ご覧のとおり少し整理統合されている。

今回は思い切って容量を軽くする必要もあるだろう。

なぜなら、「まちじゅうアートフェスタ」以外にも、5年後の2021年には市制施行100周年となる。

また、2020年には東京オリンピック・パラリンピックがあり、日本全国で文化プログラムが実施される。

この3つの大きな大切な時期に実施する事業を考えるためにも、今回は、ある程度整理統合して、新しいことを考えるために、意識的に「隙間」つくる必要がある。

市制施行100周年については、市役所だけでなく市民全員が考えなくてはいけない。

委員の皆さんもアイデアをぜひお願いしたい。

(会長) 話は変わるが、県関係の事業で、あるワークショップと関わりがあったが、最近の子どもは忙しすぎる。

ワークショップを、実際に開催してみるとスタッフの子どもしか来なかった。

必ずしも、夏休みに実施すれば大丈夫というわけでもない。

事業の中には、子どもを育成するものがあるが、今年の「まちじゅうアートフェスタ」も、子どもがどれ程参加するのかという心配があった。

学校現場でも、だんだん忙しくなっているようですが、どうですか。

(委員) 子どもたちが忙しいのは事実。

ただ、最近子どもを地域の中で育てるということをしている。

また、今の子どもたちは自己有用感、自分が誰かの役に立っているという感情が少なくなっているのが問題と言われている。

少し前は、子どもに自己肯定感が少ないということが言われて

いたが、現在は自己有用感がある子どもたちを育てていこうという傾向がある。

例えば、「何か体験をしてみませんか」より、「あなたの力が必要なんです」、「あなたの力を貸してください」と、そのように持ってくる、子どもたちは参加してみたいと思うのではないか。

(会長) 彫刻の清掃活動などがありますが、そのような活動が当てはまりますかね。

(委員) 清掃だけでなく、「彫刻についてあなたが調べたものを掲示するので丁寧な字で書いて」、「あなたの字で掲示する」とか、「立派な掲示物をつくるので」などとお願ひすると良いと思う。

(会長) 大学生も同じですね。普段元気のない学生に、「この資料を探して欲しい」とか、「何日までに使うから、これを何日までに書いて来て」と頼むと頑張る学生も多い。

(会長) 美術館建設については、結論が出たのか。

(事務局) 現行ビジョンでは、市民ギャラリーの活用の側面が強く、目標指標も市民ギャラリーの活用日数などとしていることから、次期ビジョンには、美術館建設検討事業は掲載しない方向で考えたい。

(会長) 美術館の建設は、ハコモノをつくる財政的負担と維持管理を考えなくてはならない大きな問題です。

次期ビジョンで検討するよりは、もっと他のところで検討してもらうことが適切でしょう。

(委員) 川崎美術館が、昨年10月に開館したが、中心部に私立美術館があるので、市としては直接建設するよりは、川崎美術館をサポートすれば良いという考えに変わったのか。

(事務局) 川崎美術館とは、催事のポスターの相互PRや、市の事業で、市民に川崎美術館を訪問してもらったりするなど、様々な関わりを持っており今後も協力していきたい。

市民ギャラリーも近接しているので、相乗効果を生み出していきたい。

(会長) 美術館に関しては、私はかねがね単体の建物を建設するのは考え直しましょうと、各方面で訴えている。

もし、建設するとしたら、せめて複合的な施設で、しかも大事なものは、郊外や山の上につくらないこと。公共交通機関でアクセス可能な便利な場所につくるべきだと思っている。

また、他の自治体、外国も含めてだが、美術館ができてどうなったかという、そんなに良くなった例は聞かない。

ひとたび、建物をつくと、美術品がないと困るため、何億円も使って絵を買うなど、文化事業の予算に偏りが生じ疑問があるケースも多い。

また、立派な美術品があると、貸館事業など行わなくなるケースも多く、市民が自分の作品を展示するような「市民参加」が困難になることもある。

私は、郊外に箱ものをつくるより、まちなかが賑わった方が文化的にも良いのではないかと思う。

近県の例だが、美術館を車でしか行けない山の上につくって、どうするのかなと思っていたが、最初は物珍しさから行ったと思うが、結局中心部の駅前の複合施設に分館をつくられた。

これからは、まちなかの賑わいなどの効果も考えて、市の中心部につくるのが主流だろう。

韓国のソウルでも、シンガポールでもそのような取組を行っている。

また、公共交通機関でアクセスできるということは、車を持っていない人や子ども、お年寄りなど、誰もが文化にアクセスできることを保障することにつながる。

検討の上、宇部市に美術館をつくることになるのであれば、せ

めてまちなかの古い建物を改造してその中につくる方が良い。  
市庁舎を建て替えるなら、その中に、ちょっとしたギャラリーのスペースをつくっても良いかも知れない。  
いずれにしても、まちなかにつくるのが、便利だ。

(委員) 資料館管理事業、はどうするのか。

(事務局) ビジョンでは統廃合するが、事業自体は、学びの森くすのき管理運営事業として実施していくことになるろう。

(委員) ユネスコ活動支援事業は、どのように考えるのか。

(事務局) ユネスコの外国語の会話教室は、既に実施していないが、ユネスコ活動そのものは行っている。

今後は、ビジョン改訂案の「外国人地域文化交流促進事業」に統合することが適切と考えている。

(会長) 現行ビジョンは、今から考えると、かなり分量の多い重たい計画で、時代の変化もあると思うが、統廃合が必要なものがある。

当時は、良かったかも知れないが、今となっては、ビジョンの範囲が広すぎて、逆に焦点がぼけるものや、文化振興ビジョンとして必要な取組かどうか、よくわからないものがある。

(事務局) 前回は既存の各課の事業から幅広く取り込んできたものであり、今回はこれを整理統合した。

整理されて、事業が少なくなった分、次のビジョンには新しいものを入れたいと思うが、そのあたりのご意見もお伺いしたい。

(会長) 委員の皆さん、例えば、2021年の市制施行100周年で、何をしたら良いと思うか自由にご意見をいただきたい。

現行ビジョンの基本目標は、「人と地域がきらめく 文化の薫るまち」。

例えば、昔なら、イベントは「美空ひばりショー」なども考えられたのかも知れませんが・・・。

市外から宇部に来られた委員さんがおられたら、ご意見どうでしょう。岡目八目で、逆に宇部市のことがはっきり見えるかも知れません。

(委員) 宇部に来て、1年半くらいになるが、住みやすいとは思いつ、食べ物もおいしいとか、気候も良いと感じる。

また、前回も話したが、おもてなし観光ガイド養成研修を受けた。歴史、文化を学び、地元のことを良く知って、対外的に積極的に情報発信する人材をつくろうという取組で感心した。

また、市民大学も受講した。市民の参加も多く、子どもが結婚するので相手方の親族に宇部のことを説明するため地元のことを学びたいなどと熱心な人が多かった。

そのようなところに参加して、宇部は意識の高い人が多い、文化度が高い人が多いまちと感じた。

建物があるとか、そのようなものも良いのだが、市民大学のようなものがあるまちが文化度が高いと感じる。

ただ、市民大学やガイド養成研修に参加する人は、もともと意識が高く、歴史やまちに興味がある人が多いのかもしれない。

それで、宇部は意識・文化度が高いと感じたのかもしれない。

むしろ、市制施行100周年などで、何かするとすれば、普段文化活動をされていない人をどう巻き込んでいくかが大事になってくるでしょう。しかし、それはなかなか難しいかも知れません。

(会長) 立派な建物より、教養があつたり、教養と言っても、単に知識が豊富という意味ではありませんが・・・、まちを愛してるとか昔のことを良く知っているとか、他人や市外から来る人に親切でおもてなしの心があるとか、そのようなことの積み重ねが文化でしょう。

立派な建物やお店がたくさんあっても、人々のマナーが悪くては駄目だ。



文化と教養、また文化と経済なども密接に関わっている。

それなりの都市規模で、文化的にも経済的にもまちが潤っている。そのようなまちが良いと思う。

観光ガイドの育成とか、市民が地元の建物・施設の研究をしたり、勉強をしたりする。

文化度の高い人が増えるのが、市制施行 100 周年に向けての目標でしょうね。健康な人がたくさん増えるとかでも良い。

市制 100 周年と東京五輪・パラリンピック関係で、ビジョンに明記すれば、予算は具体化されやすく獲得されやすいのでしょうか。

既に、予算は決まっていますか？

(事務局) 先ほども、ご説明したとおり、次期ビジョン案と予算とは直接連動はしておらず予算編成もこれからです。

ただ、今、会長がおっしゃられたことは、重点アクション・プログラムC「未来に向かうまち」で取り組みたいと考えている。

観光ガイドを養成して、まちやまちの歴史などをたくさん知っている人を増やしていく。

また、そのような人が、他の市民に教えていく。教えるまでいなくても、色々な活動に参加して、まちの文化を盛り上げる。

100 周年に向けて、このような人たちを増やす。また、そのような体制を整備したいと考えている。

それから、大都市圏をはじめ、U・I ターンも含めて日本各地から、宇部に第二の人生を送られるため、帰郷・移住される方が持っておられる文化力など生かせる活躍の場を準備できるようにしたい。

帰郷・移住された方が、従前から住んでおられる市民に良い影響を与えてくれるような仕組みが、100 周年の財産として残せるようになればと考えている。

(会長) 大きな方向性、重点アクション・プランの変更案ですが、大きな枠組みは変えないで、状況が変わっているものを「変更した」ものです。

委員の皆さん、重点事業の大枠は、これでよろしいでしょうか。素案なので、次回以降また変えることは、もちろん可能ですが、重点は概ねこの方向性で持っていきたい。

次は個別事業についても、何かあればご意見いただきたい。

(委員) 職業柄、食文化が個別事業にないように思われる。うべ元気ブランド育成事業があるが、これは店舗や業者向けの施策と思われる。

子どもたちとか、若い母親たちに働きかける食の取組が必要と思われるが。

どこかの事業に入るか。

(会長) 個別事業の中に、食文化をどこかに入れるようにするか。

「食文化推進事業」などとして検討できる。

(事務局) まちじゅうアートフェスタなども「食」の要素があり、伝統食も取り上げてPRしており関わりがあると思う。

子ども、大人の食育に限らず、食の事業をどこかに当てはめるよう検討したい。

(会長) 学校で食育の取り組みはどのようになっているか。

(委員) 教科があるわけではなく、給食・家庭科・生活総合の時間も含め勉強する時間がある。

野菜を自分たちで栽培して、自分たちで料理することもあるし、給食で地産地消を実践するなど栄養教諭の指導もある。

(会長) 防府市は、企業が食育を支援するなど聞いているが、どこからの支援活動はあるか。

(委員) 現在のところない。

ただ、もし何らかの形で、事業の支援、食育に限らず、事業が実施されるとしたら、中心部だけでなく、宇部市域全体で支援

活動がなされるようお願いしたい。

他市の例では、支援活動が中心部の学校ではできても、旅費や時間の問題なのか、周辺部の学校では行われなこともある。

それから、100周年をどうするのかについて、今の子どもたちには、5年先だが、ちゃんと宇部に居てくれるような取り組みが必要。

遠くに行っているかもしれないが、故郷を思ってくれるような子どもたちを育てたい。

地域が文化的であれば、思い出したり、帰ろうかと思ったりここに、住み続けようと思えると思う。

学校現場では、故郷を愛し、誇りを持てる子どもたちを育てようとしている。

地域の中で、子どもを育てることが大切。故郷を愛することは、自分のことを愛せることにつながる。

自分が役に立っていると感じられることにつながる。

100周年、若い人が意見を言えて、自分も故郷に力を貸してみようという取組や事業があれば良いと思う。

(会長) 先日、学生と話をした。宇部市で育ち、地元の高校を卒業して大都市の大学に進学し、そこで就職して結局宇部に帰ってこない。

そんな人が宇部市内にたくさんいる。

そのために、彼らの両親の店などが後継者難になったりして、最後には店がなくなる。

個人的な事情はあろうが、そういうことが繰り返されて、宇部がさびれていくのは残念。

帰って来れなくても、宇部を愛してくれるような具体的な事業が、形になってくれたら良い。

山口大学も、県内就職を今より10%上げようとしているが、職業選択の自由の問題もあるのでなかなか難しい。

現在、県外から入学した学生に山口県を好きになってもらうような研修や県内企業でのインターンシップを実施している。

(委員) 　少し前まで、世界に羽ばたくのが良いとされてきた。  
能力のある人は、世界に羽ばたくことが推奨されてきた。  
　しかし、現在は、人口の半分が三大都市圏に集中しており、いかに地元を活性化させることが大事と思える。  
　若い人が地元に残ることに意義を感じるような教育をしていきたいと思う。  
　自分の力が地元で生かせるんだ。そういう思いを持てるような教育をすべき時代になっている。  
　仮に、市外に出たとしても、「自分の故郷はここです」、「ここで生まれ育ったんです」と、誇りを持てるような、地元の良さを知って外に行けるように育てたい。  
　地元の良さを知るとは、地元の文化を知ることと思う。

(会長) 　私も同じ思いです。  
　それでは、重点アクション・プログラムの変更案については、概ね了承されたとして、個別事業については、分量や内容をまた検討していく。  
　さらに、市制施行 100 周年の取組やイベントは皆さんの宿題にする。皆さん、事務局へアイデアを後日提出してください。  
　例えば、「小学生全員で何かに取り組む」とか「自分史をまとめて、それをどこかで共同展示」するとか、現実味を帯び、予算もあまりかからないものにする。

(事務局) 　委員の皆さんは、8月15日(月)までに、「市制施行 100 周年」に向けた事業や取組を、メール等何らかの方法で、事務局に届けてください。  
　また、次回は、市民アンケートやワークショップの結果報告も行う予定です。

### (3) その他

次回、第3回会議については、8月18日(木)15時から開催することとした。